音楽と私

習志野シニアアンサンブル　月岡 喜久雄

「楽譜」と接した時間は長いのですが、果たして音楽と呼んでいいのか自信はありません。思いあたるのは中学3年のとき、校歌発表に際して、各クラスから1〜2名選抜された即席合唱団で発表することになり、何の取柄もない私が先生に指名され、まわりより本人が一番びっくりしました。日頃から勉強やスポーツで頑張るのは大変だけど、歌なら思い切って大きな声さえ出せば何とかなると、甘い考えでした。本番は神戸国際会館で朝比奈 隆指揮、関西交響楽団の演奏で始まりましたが、あがって声が出ませんでした。

高校に入学し部活紹介の折、中学では散々竹刀で殴られるだけで、上達はしなかったので、今度はもっと上品で優雅なところがいいかなと思っていたところ、綺麗なお姉さまから声をかけられ、今まで女生徒とは物も云えないアカンタレだったのですが、恥ずかしながら、ついていきました。そこが弦楽合奏団だったのです。入団はしたものの、見ると入るとでは大違い。早朝、昼、夕と練習があり、バイオリンの開放弦をただ弾くだけでした。夏以降は文化祭の練習に入るので、それまでに基礎は終わらなければと、夏休みを返上し、ホーマンの教則本を頑張りました。ところが本番では「君はビオラ！」と鶴の一声で、慣れない楽譜と格闘することになりました。

文化祭の曲目はバッハの「組曲2番」他、そうこうして高校は卒業していくのですが、受験勉強はお留守になっていまして、とりあえず兵庫県職員になり、しばらくは公務員生活を楽しみ、音楽とは縁が無くなりました。やがて大学に入り、就職、結婚そして子供が幼稚園に通うようになり、池田市に移転した時、母がバイオリンを孫にプレゼントしたので、仕方なく息子をレッスンに通わせ、やがて娘もバイオリンを習いに行くようになり、私も負けじとキラキラ星から始めました。今度は鈴木の教則本で、必死で頑張り、8巻くらいになったとき、箕面交響楽団に入れていただきました。

パートはセカンド バイオリン、曲目はドボルザーク交響曲第7番や田園でした。未熟で、なかなか弾けませんでしたが、阪大卒の美人パトリが懇切丁寧に教えてくださり、何とかついていけました。まもなく東京への転勤辞令があり、残念ながら箕面では一度もステージに上がることはありませんでした。

さあ花の東京です！ 仕事にも慣れ、休みの日は銀座、渋谷、浅草、柴又などウロウロしていましたが、このままでは寂しいので、あちこちオケを探し、中央フィルハーモニアに入団し、毎週土曜日の18時から3時間オーケストラの練習をし、終われば恵比寿や代々木で毎回飲み会でした。中央フィルでの最初の曲がチャイコフスキー交響曲第5番でした。以後人生の節目でチャイ5は登場するのです。今年6月もマスターズ オケでチャイ5はやったのですが、4楽章フィナーレのところは苦労しました。この間、沖縄転勤があり、沖縄では沖縄交響楽団に入団し、第9やカルメンを演奏しましたが、期間が2か月もないので、毎日CDに合わせて全楽章通す練習をし、終わってから泡盛を飲むのを唯一の楽しみにしていました。定年まで中央フィルでひたすらバイオリンを弾いていたのですが、通うのが遠いため、名残惜しいのですが、退団することにしました。

定年後は自宅に近いところがいいと思っていたところ、千葉シニアアンサンブル発足の記事が「定年時代」にありましたので、早速入団させていただきました。ただ曲目が「春の小川」とか「浜千鳥」のような曲で、やめようかと思いましたが、皆さんいい方ばかりで、なかなか云出だせませんでした。その後、幕張フィルや市原シニアアンサンブルにも入団させていただき、ここもいい方ばかりで、楽しいひと時を過ごさせていただきました。シニアアンサンブルを勉強させていただいたところで、習志野シニアアンサンブルを立ち上げ今日に至っています。